

持続可能性の高い経営に取り組む企業の表彰制度

三重の

サステナブル経営アワード

～ 令和4年度受賞企業のご紹介～



エイベックス株式会社



株式会社オオコーチ



河村産業株式会社



株式会社北村組



株式会社フジ技研



株式会社宝輪



特定非営利活動法人
三重県生涯スポーツ協会



三重執鬼株式会社

三重のサステナブル経営アワードへの期待

「三重のサステナブル経営アワード」は、世界的にサステナブル経営への関心が高まっているなか、これからの企業経営に求められる「持続可能性」の視点を評価基準とする表彰制度として、「三重のおもてなし経営企業選」をリニューアルするかたちで令和4年度に新たに創設しました。

本県の中小企業・小規模企業は、県内の企業数の99.8%、従業者総数の88.3%を占めており、地域の雇用や経済、社会を支えている重要な存在です。本制度は、持続可能性のある優れた取組を行う中小企業・小規模企業に注目し、その魅力を情報発信していくとともに、持続可能性の高い経営に取り組む企業の裾野を拡大することを目的としています。

今回ご紹介する令和4年度受賞企業は、「環境への配慮・脱炭素」、「次世代育成の推進」、「地域社会への貢献」、「従業員満足度の向上」に目を向けた特長的な取組をされており、社会の変化にも対応して発展を続けています。コロナ禍や原材料価格の高騰等で中小企業・小規模企業を取り巻く環境が依然厳しい中、前向きな取組により地域を牽引する企業の存在は重要です。今回表彰された各企業の取組を通じて、県内中小企業・小規模企業の皆様が「サステナブル経営」への理解を深め、自らも持続可能性に目を向けた経営に取り組んでいただくことで、競争力や事業継続力の強化、新たな雇用の創出につなげ、地域経済活性化の原動力となっていただくことを期待しています。



令和5年3月
三重県知事 一見 勝之

「三重のサステナブル経営」とは

環境や社会の持続可能性に配慮しながら、長期的に良好な経済活動を行う経営のことで

「三重のサステナブル経営アワード」では、「環境への配慮・脱炭素」、「次世代育成の推進」、「地域社会への貢献」、「従業員満足度の向上」の4つの取組を実践することで、自社の付加価値の向上と経営基盤の改善を推進する、他の県内企業のモデルとなるような持続可能性の高い企業を表彰します。

「三重のサステナブル経営アワード」の4つの要素

環境への配慮・脱炭素

例えば

- ・ペーパーレスの推進
- ・グリーン電力の活用
- ・フードロスの削減 など



環境に優しい企業としてのイメージ向上

次世代育成の推進

例えば

- ・社会見学の受け入れ
- ・地元小学校へ教材や図書の寄付
- ・育児支援制度の充実 など



次世代育成に取り組む企業姿勢の明確化

地域社会への貢献

例えば

- ・ボランティア活動への積極参加
- ・地域への寄付
- ・地元からの積極的な採用 など



地域に信頼され長く愛される存在

従業員満足度の向上

例えば

- ・働きやすいオフィスの整備
- ・社内提案制度の充実
- ・働き方改革の推進 など



人材の定着の促進・従業員の能力開発

このような「持続可能性の高い経営」を行う企業を表彰します

表彰の目的

持続可能性の高い経営に取り組む企業の裾野拡大

令和4年度受賞企業



◆ エイベックス株式会社

桑名市多度町下野代字谷 3503-30
TEL:0594-49-3025 FAX:0594-49-3035
H P:<https://avex-inc.co.jp>

◆ 河村産業株式会社

四日市市西大鐘町 330
TEL:059-337-1122 FAX:059-337-1125
H P:<https://www.kawamura-s.co.jp/>

◆ 株式会社フジ技研

いなべ市大安町鍋坂 2262-8
TEL:0594-78-0200 FAX:0594-78-0450
H P:<https://www.fujigiken.jp/>

◆ 特定非営利活動法人 三重県生涯スポーツ協会

津市寿町 18-15 CS ビル 6 階
TEL:059-273-5300 FAX:059-273-5303
H P:<https://lifelong-sport.jp/>

◆ 株式会社オオコーチ

松阪市大黒田町 472
TEL:0598-26-1551 FAX:0598-21-2676
H P:<https://www.ookochi.co.jp>

◆ 株式会社北村組

松阪市中央町 306-1
TEL:0598-51-3400 FAX:0598-51-8150
H P:<http://www.kitamuragumi.co.jp/>

◆ 株式会社宝輪^{ほうわ}

鈴鹿市国府町 5696-1
TEL:059-378-2818 FAX:059-378-0861
H P:<https://www.kkhowa.co.jp/>

◆ 三重執鬼株式会社^{とるき}

鈴鹿市地子町 523-2
TEL:059-384-0003 FAX:059-384-0804
H P:<https://www.toruki.co.jp/>

人を活かした“勝ち進む経営活動”

2022年に73年目を迎えた老舗の自動車用精密研削加工部品製造メーカーで、専門技術のものづくりを「極める」がテーマ。桑名市にある2つの工場で高品質な金属部品を製造する一方で、桑名市と連携し、産業観光の推進にも注力。

- 創業 1949年
- 従業員数 498人
- 資本金 1000万円



代表取締役 加藤 文典

地域に必要とされ続ける「地域循環型経営」

地元からの積極的な雇用や、高等教育機関での講義の実施、若手起業家の育成支援など、地域に根差した活動を積極的に推進。地域と産業の関係の重要性を若い世代や次世代の子どもたちに発信し、人材確保につなげている。徹底的に地元こだわった「地域循環型経営」を進めることで、地域に雇用の場を提供し、地域に必要とされ続ける企業づくりに努める。



工場での地域の子もたちとの交流

地域と連携した産業の観光化

本業の自動車用精密研削加工部品の製造に加え、地元桑名市と連携して産業観光にも注力していることが大きな特長。国内外の観光客を積極的に受け入れ、地域活性化につなげたことで、2017年には「産業観光まちづくり大賞」の金賞を受賞した。産業観光によって自分の仕事をお客様に見ていただく機会を多く確保することは、従業員の技術力や愛社精神の向上につながり、人材育成の役割も果たしている。



産業観光に訪れた外国人観光客

誰もが働きやすい職場づくり

同社では、工場内で従業員が着用する帽子を色分けし、新入社員や障がいのある人など、それぞれの従業員の特性が一目で分かるように工夫されている。さらに、有給休暇取得率の向上や工場の整理整頓の徹底など、働きやすい環境整備にも取り組み、多様な人材が安心して活躍できる職場づくりが進められている。

また、外部との連携によって商品開発の機会を多く確保するなど、従業員に新たな成長機会を積極的に提供し、意欲の向上に努めている。



工場内で従業員が着用する帽子を色分け

株式会社オオコーチ (松阪市)

木を活かし、持続可能な社会をめざす

木材・木製品製造販売、住宅資材販売、建設工事、不動産賃貸仲介など、木材の生産から加工、流通、販売、建築と木材産業に全体を通して関わることで、顧客のニーズに合わせた事業を機動的かつ適切に行っている。

- 創業 1938年
- 従業員数 39人
- 資本金 9000万円

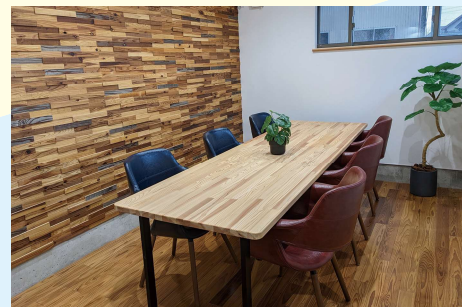


代表取締役 黄瀬 稔

信頼性の高い品質を実現する生産体制

品質にこだわり、県内有数のJAS認証工場として安定した品質の製材を製造。信頼性の高い品質が確保されており、天皇杯受賞など受賞歴も多い。工場の労働環境改善にも努め、誰もが働きやすい環境が整備されている。

また、「三重の木」認証事業者として、県産材の積極的な活用も推進。三重県産材を使った内装材の商品開発や、住宅・施設・店舗の建築など、県産材を活用した木造建築物の普及も行っている。



三重県産杉を使った壁材「Mieでこす」と土足歩行可能なフローリング「Mieひのす」

環境に配慮した取組の推進

木材の乾燥には木質バイオマスボイラーを利用。重油を極力使用せず、製材で出るおが粉や端材を燃料として活用することで、廃棄物がほとんど出ない体制を実現し、木材を最大限に活用した運用が行われている。さらに、太陽光発電も活用してボイラーのエネルギー削減にも努めるなど、環境に配慮した取組に注力している。



木質バイオマスボイラー

木を扱う会社としての脱炭素社会実現

同社ではSDGs宣言を作成し、木を扱う会社として、脱炭素社会の実現を目指している。

自社のCO₂排出量の算定を行い、自社の二酸化炭素排出量の見える化を実施。また2023年2月現在の社有林は市内を中心に約34.6ha(東京ドーム約7.4個分)あり、CO₂の吸収量は年間506.1トンに及ぶ。森林の機能が十分に発揮されるために、植える、育てる、伐る、使う…という森林の循環を促すよう森を適正に管理し、森林機能の維持と、製材、建築の推進に取り組む。



オオコーチ社有林

人と技術と幸せな未来へ

電気絶縁材料と電子材料の2つを事業の柱とする。高い技術力と、それに裏打ちされた確かな品質により、インフラから身近な電子機器まで、幅広く産業を支えている。

- 創業 1968年
- 従業員数 250人
- 資本金 8000万円



代表取締役 河村 常雄

データベース化による生産効率向上

同社では情報のデータベース化を積極的に推進。電子情報として「保存」・関係者間で「共有」・有効的に「活用」という3段階で、生産効率の上昇につなげている。在庫管理に二次元コードを導入したことで、4人で4時間かかった作業が1人で2時間でできるようになったという例もあり、働き方改革に大きく寄与。そのことがペーパーレスの推進や、工場の整頓にもつながり、効率的な作業が可能な環境が実現している。



在庫管理に二次元コードを導入

カーボンニュートラルに沿った企業の発展

太陽光発電やCO₂フリー電気の導入、製品梱包材のリユースなど、環境に配慮した取組を積極的に推進。CO₂削減とエネルギーの地産地消の実現によるカーボンニュートラルを進めながら、企業の発展をめざす。

また、太陽光発電システムの導入によって停電時の給電を可能にした点や、工場によって取り扱う主力製品を分散している点など、BCP対策にも積極的に取り組んでいる。



本社工場での太陽光発電の活用

地域の子どもたちを見守る

地元四日市市の「こども110番みまもりたい」への参加など、地域の子どもたちを守る取組に積極的に協力。また、会社見学やインターンシップ、「小学生のためのお仕事ノート」への協賛も行っている。さらに2017年に三重県の中小企業として初めて「プラチナくるみん」を取得しており、従業員の子育て支援制度も充実。地域の子どもたちの育成を支援する取組に努めることで子どもたちに同社を身近に感じてもらうとともに、社内制度を充実させることで人材確保につなげている。



地域の子どもたちを支える取組

株式会社北村組 (松阪市)

人・環境にやさしく、地域とともに歩む

総合建設会社として、建設土木プランニングからメンテナンス、また新たな価値観を創造する企画提案まで取り組む、地域密着型の「建設コンサルタント」企業。

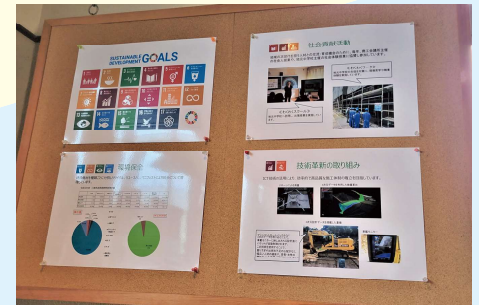
- 創業 1947年
- 従業員数 120人
- 資本金 9900万円



取締役社長 北村 浩文

環境負荷低減に向けたCO2排出量の把握

カーボンニュートラルに向けた取組として、建設現場においてどれだけのCO₂を排出しているのかの算出を行っている。土木・建築の現場でのCO₂排出量を細かいところまで把握することで、CO₂排出の主要要因を分析し、よりCO₂削減効果の高い施工計画の作成につなげることがねらい。自社内部における排出量だけでなく、自社の活動に関連する他社の排出量(Scope3)まで把握を行い、高い環境意識を持った経営に取り組んでいる。



社内ではSDGsに対応した環境保全等の取組について掲示

SDGs委員会による継続的改善

社内に組織横断型のSDGs委員会を設置し、幅広い部署の従業員で継続的改善に取り組む。従業員全員から身近な課題や希望と解決案を抽出し、その中から投票で決定した「人材確保」・「スキルアップ」・「働きやすい環境づくり」の3つの方針について、委員会で月次検討を進めている。「SDGs委員会で他部門の従業員と働けることが楽しい」と従業員の満足度も高い。こうした取組により、自社のブランディング強化にもつなげている。



SDGs委員会の様子

地域に応援される企業へ

地元中学校や高校を対象に、職業体験や工事現場見学会を積極的に実施するなど、地域に密着した取組にも注力。本社のギャラリースペースには、参加した生徒からのお礼や応援のメッセージも展示されている。

また、先述のSDGs委員会の提案により、従業員の家族を会社見学に招待したり、地域の障がい者就労支援施設が作るお菓子の訪問販売を行ったりといった取組も実施。地域貢献を行いつつ、地域に会社の応援団を増やすこともめざしている。



子どもたちを対象にした工事現場見学会

モノづくりの心と技を未来に繋ぐ

自動車の製造工程で必要となる試作部品・量産部品などを製作。設計から組立検査まで自社一貫生産する体制で、多種多様な要望に柔軟に対応する。また、2022年からモノづくり複合施設「FUJIHUB」を運営し、様々な地域交流事業を展開。

- 創業 1988年
- 従業員数 155人
- 資本金 2300万円



代表取締役 佐藤 正廣

会社の宝は社員

社内の福利厚生棟には本格的なスポーツジムを設置。従業員の家族も利用できるほか、地元のスポーツクラブの選手が利用しに来るほどの設備が整っている。

また、女性従業員の希望から、子連れ出勤も可能に。保育専門スタッフによる預かりが利用でき、安心して仕事に取り組める。さらに、キッチンスペースやシャワールーム、仮眠室も完備されており、従業員は寝泊まりも可能。このような充実した福利厚生で、従業員満足度は高い。



福利厚生棟のスポーツジム

先進的なDX化による業務改善

同社では、約20年前から徹底的にペーパーレス化に取り組んでいる。従業員のデスクには引き出しがなく、社内に設置されているファイル棚もわずか7つだけ。また、デジタル化に伴うセキュリティ対策も進められており、在宅業務ではパソコンで作業中に人が後ろを通ったら自動的に画面が閉じられるなどのシステムも数多く構築。さらに、社内で開催されるセミナーも充実しており、人材育成にも力を入れている。

これらの取組で、業務の効率化や環境負荷の低減を行っている。



社内でのセミナーの様子

「FUJIHUB」で地域交流を促進

本業の自動車部品製造業の一方で、モノづくり複合施設「FUJIHUB」を開設。この施設を核として、ものづくり体験教室や、マルシェ・イベントを開催している。

さらにFUJIHUB内のカフェでは、同社が事業承継した養鶏場で採れた「いっちゃんたまご」などの地元産食材を活用した料理やスイーツが楽しめる。企業と地域、人と人をつなげる事業を展開するFUJIHUBは、地元の方々が集まる地域の交流の場となっている。



FUJIHUBで開催されているものづくり体験教室

時代の変化を糧に、挑み続ける強い会社

創業からのメイン事業は運送業であるが、時代の流れに合わせて多角化し、構内物流業、不動産賃貸業等を営む。関連会社を3社持ち、ガソリンスタンド業、自動車修理販売リース業、建築内装業等も行う。

- 創業 1968年
- 従業員数 118人
- 資本金 2000万円

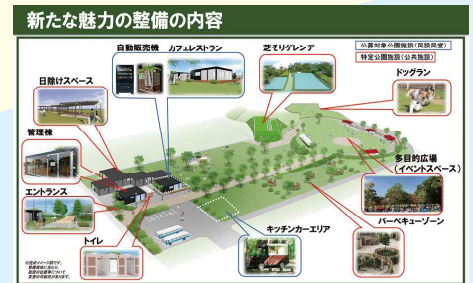


代表取締役 蕪竹 理江

事業の多角化で雇用を創出

運送業にこだわらず事業の多角化を行っていることが大きな特長。近年は津市から中勢グリーンパークのPark-PFI(公募設置管理制度)事業者指定され、2023年4月から園内でカフェ等の運営を行うほか、新たな物流拠点の建設も手掛け、地元人材の雇用創出を図る。

また、多角化によって新たな仕事を作り、従業員の活躍の場を広げることもねらいの一つ。女性や高齢者など多様な「人財」が長く働ける職場づくりに努めている。



中勢グリーンパークのPark-PFI

環境意識を高く持った取組

輸送部門では、タイヤの摩耗した部分だけを新しく張り替えて再利用するリトレッドタイヤの使用や、トラック2台分の積載が可能な大型トレーラー輸送を実施し、CO₂排出量の削減に取り組んでいる。

また、不動産賃貸部門では、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることをめざした建物「ZEB(ゼロ・エネルギー・ビル)」を保有。ZEBである津営業所では、常に省エネの見える化が行われている。また、県内で初のZEBリーディングオーナーとして、ZEBの周知活動にも力を入れている。



2019年にZEBリーディングオーナーに登録

ガバナンス強化のための独自組織

「サステナブル=生存戦略」と考え、2021年に専門部署「ESG」を設置。同社のESGは「環境・社会・ガバナンス」に加え「教育(Education)・持続性(Sustainable)・成長(Growth)」も意味する。ESG内には脱炭素推進室、働き方改革推進室、リスクリング推進室、CSR推進室等が属し、事業や社会貢献をESGの視点から確認することで、ガバナンスの強化につなげている。また、月に一度各部門の長が集まり「部門会」を実施。従業員の声を経営に反映したり、コンプライアンス意識を共有したりする場となっている。



月に一度各部門の長が集まる「部門会」

子どもの健やかな成長を支える

県内各地で子ども向けのスポーツ教室やプログラミング教室を運営し、スポーツ振興、競技力の向上、健全な情報化社会の発展、国民の健康の増進、地域の活性化と発展に寄与することを目的とするNPO法人。

- 創業 2012年
- 従業員数 18人



理事長 竹田 昌平

豊富なプログラムで地域の子どもの成長を応援

サッカー、ドッジボール、運動能力の向上を目的とする「忍者ナイン」など、豊富なメニューのスポーツ教室を地域で気軽に受けられる点が特長。また、小学校でプログラミングが必修化されたことに合わせ、2017年からはプログラミング教室も新たに手掛ける。スポーツやプログラミングを通じた、子どもの成長を応援する取組で、地域社会に貢献している。



プログラミング教室の様子

スポーツによる地域貢献

プロのスポーツ選手を招いたスポーツイベントの開催や、公共スポーツ施設の指定管理事業など、スポーツを通じた地域活性化を推進。また、大学での「スポーツツーリズム」の講義の実施や、企業や団体を訪問しての「健康経営」のコンサルティング、子どもの生活習慣調査の実施と自治体へのフィードバックなど、企業や自治体と連携しながら、NPOとしての強みを活かして幅広く地域密着の取組を行っている。



プロのスポーツ選手を招いたイベント

自己実現欲求に応えられる職場づくり

質の高いサービスの提供のため、従業員が長く働ける職場づくりを重要視。充実した資格取得支援制度を設け、従業員の積極的な学びを支援している。資格取得だけでなく、学会やセミナーへの参加も推進。さらに、従業員が学んだ内容を発表する場を設け、情報の活用へとつなげている。

また、従業員の子どもは協会のスクールに無料で通うことができるなど、育児支援制度も充実。働きがいのある職場を実現し、サービスの向上にもつなげる。



講習会への参加

とるき
三重執鬼株式会社 (鈴鹿市)

地域社会と共生し、人を大切にする経営

物流のスペシャリストとして、輸送、倉庫・保管、流通加工をワンストップで提供。安全・環境・高品質を追求したサービスを提供し、地域の物流におけるベストパートナーをめざす。

- 創業 1978年
- 従業員数 192人
- 資本金 5000万円



代表取締役 寺田 忍

暮らしを支える地域のライフライン

経営理念は「全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、この国の暮らしと経済を支えるライフラインとして地域社会に貢献する」。地域に密着した運送業として、「地域にとって必要なことをする」という意識を強く持ち、ワクチン輸送や給食配送など、他社では参入しにくい業務にも地元の強みを生かして積極的に取り組む。

地域から必要とされ、愛される会社になることが、従業員の誇りや幸せにもつながっている。



本社と所有トラック

物流企業としての環境配慮

物流企業としての責任意識のもと、燃料や消費電力などの節約による省エネルギー化に取り組むことで、地球環境保護の一端を担う企業を目指す。

使用済み天ぷら油を再利用したバイオディーゼル燃料を利用しているほか、CNG(圧縮天然ガス)トラックや電気トラックの導入を推進。また、ハイブリッドトラックも積極的に導入しており、環境に優しいトラックの利用によって、エコ&クリーンな事業を推進している。



環境に優しいCNGトラック

“人を大切にする経営”の実現

従業員の幸せのために会社があり、その幸せは地域を含めこれからの社会に還元されるというのが同社の考え。働きやすい職場環境の改善に継続的に取り組み、女性や高齢者など多様な人材の活躍の場を創出している。

また、運転技能大会への出場を支援するなど、従業員の育成に注力。全国トラックドライバーコンテストや全国フォークリフト運転競技大会では女性ドライバーの入賞実績もあり、従業員が挑戦できる環境を整備している。



従業員を大切にする取組

シンボルマークについて

三重県立飯野高等学校応用デザイン科、
三重県立松阪工業高等学校繊維デザイン科の
皆様にご協力いただき、アワードのシンボル
マークを作成しました。

審査の結果、応募のあった49作品の中から、
右のデザインをシンボルマークに採用することと
いたしました。

<シンボルマークのコンセプト>

アワードの4つの要素（環境への配慮・脱炭素、
次世代育成の推進、地域社会への貢献、従業員満足度の向上）
をイメージした4つの山が組み合わさってひとつになる過程を、
サステナブルの頭文字である「S」の形で表現しています。



三重のサステナブル 経営アワード

「三重のサステナブル経営アワード」に応募してみませんか？

- 県内に主たる事業所がある中小企業・小規模企業が対象です（NPO、各種団体等を含む）。
- 業種は問いません。
- 3決算期以上事業が継続している必要があります。

審査・表彰企業決定までの流れ

一次審査（書面審査）

ご提出いただいた書類をもとに審査します。

二次審査（経営者プレゼンテーション）

原則として経営者から、取組等についてヒアリングを行います。

三次審査（現地訪問）

現地訪問し、現場の様子を拝見します。

選考会議、報道発表、表彰式

表彰企業を決定の後、ホームページ等で発表し、表彰式を行います。

多数のご応募をお待ちしています。

☆詳しくは、で検索！

次回募集は、令和5年5月頃開始の予定です。

三重県雇用経済部 中小企業・サービス産業振興課

〒514-8570 津市広明町13番地（三重県庁8階）

☎TEL:059-224-2393 / ☎FAX:059-224-2078

✉Email:chusho@pref.mie.lg.jp